跡見学園女子大学文学部紀要　第 44 号　(2010 年 3 月 15 日)

現代日本の青年期の男女における善悪に関する意識構造と道徳領域判断

(2)「善さ」について

A Study on the Sense of Morality in Japan : Difference of judgment in adolescent men and women (2) moral good deeds

阿部　洋子
Yohko ABE

問　題

子どもたちの道徳心は、誰がどのように育成しなければよいのだろうか。家庭での躾、学校での道徳の授業、地域社会での関係性のあり方などが重要であろう。しかし、現代の日本の青少年を取り巻く環境は、道徳心を育成するための場としての機能をどの程度、果たすことができているのだろうか。また具体的にどのような機能が失われていまったのだろうか。

Smetana 等（1983）は、道徳・社会的慣習・個人のそれぞれの領域に属すると判断された行為を列挙して貰い、続いてそれらの行為は、規則の有無に関わらず、即ち法律による罰則規定の有無に関わらず、「善い／悪い」と思うかの判断を求めた。その結果、19-20 歳以上になれば、道徳領域に属する行為は、75-100% の範囲で、規則や期待の有無に関わらず（「規則随伴性」と称する)、「善い／悪い」と判断することができるようになる。一方、個人領域に属する行為は、88-100% の範囲で、個人の自由に任せる方がよい（「個人決定権」と称する）と判断されると報告している。ところで、道徳と類似する概念として、社会的慣習があるが、それらの行為は、道徳領域に属する行為における、規則随伴性と善悪の判断の間に見られる強い関係性は見出せなかった。つまり、Turiel（1983）が述べるように、道徳領域と社会的慣習領域は、異なる行為として認識されていると結論づけている。

これまでも予備的調査を実施（阿部；1996, 1998, 2005）し、現代の日本における道徳構造の特徴を、領域判断、悪さの程度、社会的文脈などから検討してきた。2007 年の報告では、青年期女子を対象としたが、今回は、青年期男女を対象とし、善悪両方の行為について調査を実施した。

なお紙数の関係で、前回の結果報告（阿部；2009）は「悪さ」についてのみを行った。今回は「善さ」についての報告を行う。

方　法

1．調査対象者および調査の実施方法

調査期日：2008 年 10 月 1 日～ 30 日

調査対象者：埼玉県および神奈川県にある私立大学（通学制）1 年生に対して、留置法により実施した。授業中に記入方法についての若干の説明を行い、翌週の授業終了後に回収した。調査対象者はきわめて好意的な態度で回答に応じてくれた。回収された質問紙票のうち、記入漏れなどの欠損データのあるものを除き、最終的に 251 名（男子：92 名、女子：159 名）を分析の対象とした。

2．質問紙の構成

1）道徳性尺度（善さ）[注1]

選定された行為は、大学生 86 名に対して、「道徳的に好ましいと思われる行為」について、各人が 10 項目を挙げて貰った結果、抽出されたものであった（阿部；1995、未発表）と、小学校・中学校の「道徳」の教科書の中から抽出されたものを、大学院生 3 名により、類似の表現のものをまとめた。そして最終的に 27 項目が選定され（阿部；1995、未発表）、青年期の男女において、以下の側面について、どのような特徴が見られるかを検討したいと考えた。

①「善さ」の程度：　選定された 27 項目について、どの程度善いと感じるかを、マグニチュード推定法を用い、0 ～ 10 点の範囲で、1 点刻みの評定を求めた（非常によい：10 点～良いことだとは、全く考えられない。なぜ、良いことなのか、理由が全く分からない：0 点）。

②当為性：　選定された 27 項目について、その行為は「必ずそうするべきだ：5 点～そうする必要は全くない：0 点」の 5 段階尺度で評定を求めた。

③領域判断：　選定された 27 項目について、その行為を「した方がよい」と考える “暗黙のルール” は、「道徳」、「社会的慣習」、「個人」のどの領域に属すると考えるかについて、いずれ

注 1）「道徳性尺度（悪さ）」についての結果は、『跡見学園女子大学文学部紀要第 42 号（2）（2009 年）』において、報告した。

か１つを選択するよう求めた。

④行為の重要性[注2]：　選定された 27 項目について、それらの行為の重要性について、どのように感じるかを、マグニチュード推定法を用い、0 ～ 10 点の範囲で１点刻みで評定を求めた（非常に重要だ：10 点～全く重要ではない：0 点）。

⑤行為の実行[注3]：　選定された 27 項目について、それらの行為を、自分自身が普段、どの程度、実行しているかについて、「いつも実行している：5 点～全く実行していない：0 点」の５段階尺度で評定を求めた。

２）自己抑制尺度[注4]

道徳性尺度（悪さ・善さ）により測定された結果の妥当性を検証するためには、日常生活における行動の自己評定および他者評定との相関を見ることが重要である。しかし、授業での関わりしか持たない調査対象者について、これらの情報を得ることは困難である。したがって次善の策として、道徳性と関係が深いと考えられる「社会性の発達の良好さ」、「責任感」、「真面目さ」等について測定した結果が、日常生活における行動評定との間で相関が見られるとされ、信頼性、妥当性ともに検証されている複数の質問紙から、いくつかの項目を選定し、それらの結果との相関を見ることにした。但し、これらの調査用紙の対象者は一般的に年齢が低いことや、意見を問うものと事実を問うものが渾然一体となっていることなども問題点がある。

そこで、「予備的調査」（阿部；1998）で用いた 70 項目を元に、これまでの調査（阿部；2007）でも項目水準での高い信頼性を得られた「自己信頼に基づく独立心・自立心」、「他者からの高い評価」、「決めたことをやり遂げる意志力・克己心」、「自己開示」の 21 項目を用いることにした。なお、この尺度の中に「虚偽性」（以下、L 項目と称する）に関する 4 項目を加え、合計 25 項目を用いることにした。評定は、それらの行為が日常の自分の行動に、どの程度当てはまるかについて５段階評定法を用い、回答を求めた（非常にそうである（はい）：5 点～全くそうでない（いいえ）：1 点）。合計得点を「自己抑制尺度得点」とし、合計得点が高いことをもって「自己を律する能力」が高いと考えた。

注 2）「行為の重要性」についての詳細な結果は、紙数の関係で、この報告では割愛した。

注 3）「行為の実行」についての結果は、紙数の関係で、この報告では割愛した。

注 4）「自己抑制尺度」についての結果は、紙数の関係で、この報告では割愛した。これまでの調査結果（2007）でも GP 分析、クロンバックの α 係数などから、項目水準で高い信頼性が確認されている。因子構造は第１因子「意志力・克己心、決めたことをやり遂げる」、第 2 因子「自己開示」、第 3 因子「独立心・自立心」、第 4 因子「他者からの高い評価」が求められた。

結　果

1.「虚偽項目（L 項目）」の検討

「自己抑制尺度」25 項目の中に組み込んだ「L 項目」（①「あなたのまわりに、嫌いな人は一人もいませんか」、②「あなたは、その日にすべきことを、やらなかったことは 1 度もありませんか」、③「あなたは、他人に知られては困るような、良くないことを考えたことは 1 度もありませんか」、④「あなたは、他人の悪口を言いたくなったことが 1 度もありませんか」）の総得点は、調査対象者の 95 %の者が 12 点以下であり、13 点以上の者は 13 人であった（Me. = 7.28 点、SD = 2.93、N = 251 人）。そこで、この 13 人（男子：6 名、女子：7 名）の回答については「社会的望ましさ」に強く引かれており、信頼性に欠ける可能性が高いと判断し、以下の分析から削除することにした。そのため、これ以降の分析対象者は、238 名（男子：86 名、平均年齢＝ 21.09 歳（SD = 3.60）、女子：152 名、平均年齢＝ 20.21 歳（SD = 1.49））となった。

2.「道徳性尺度（善さ）」の検討（男子：Table １、女子：Table ２）

１）「善さの程度」の検討：GP 分析およびクロンバックの α 係数による検討

「道徳性尺度（善さ）」の 27 項目について、GP 分析を実施した結果、道徳性尺度得点（善さ）の高得点群（上位 25 %）と低得点群（下位 25 %）において、27 項目で有意差が見られた。またクロンバックの α 係数を算出したところ、全体および各項目に亘り、すべて 0.80 以上であり、項目水準で、高い信頼性が確認された。

２）「善さの程度」の男女の得点差による検討（t 検定による分析）

27 項目全体の平均値は、男子では、7.32 点（SD = 1.24）、女子では、7.24 点（SD = 1.24）であり、ほぼ同じであった。この結果は、「悪さの程度」の男女差と比べて、更に小さいものであった（「悪さの程度」の平均値は、男子：Me. = 6.69 点（SD = 1.33）、女子：Me. = 6.85 点（SD = 1.40）であった）。

また、27 項目中、平均点において、0.1 点以上の差が見られた項目は、13 項目において男子の方が高得点を示し、5 項目において女子の方が高得点を示し、全体的には、男子の方が「善さ」についての感受性が高いという結果となった。これは、「悪さの程度」においては、女子の方が感受性において高いという結果と逆のものであった。

なお男子の方が高得点を示した項目は「№5　年上の人に対して敬語（相手を敬った言葉遣い）

を使う」、「№7　乗り物の中で、障害のある人、怪我をしている人に席をゆずる」、「№15　親孝行する」、「№16　先祖のお墓参りに行く」、「№17　自分の先祖を大切に思う」、「№18　神仏に手を合わせる」、「№20　日本の国を愛する。大切に思う」、「№21　自分の故郷を愛する。大切に思う」、「№22　日本人を愛する。大切に思う」、「№23　世界中の人を愛する。大切に思う」、「№24　夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする」、「№25　夢や目標を持つ」、「№26　自然を大切にする」であった。次に女子の方が高得点を示した項目は「№2　家族の人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う」、「№9　乗り物の中で、携帯電話で声を出して話をしない〔緊急事態や、自分1人しか乗っていない場合は除く〕」、「№10　小学生・中学生が校則を守る」、「№14　家族揃って、食事をする」、「№19　太陽に手を合わせる」であった。

次に、男女の得点差についてt検定を実施したところ、「№24　夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする」（$t(236) = 5.36, p<0.001$）、「№26　自然を大切にする」（$t(236) = 1.68, p<0.05$）の2項目は男子の得点が有意に高かった。「№2　家族の人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う」（$t(236) = 1.68, p<0.05$）、「№9　乗り物の中で、携帯電話で声を出して話をしない〔緊急事態や、自分1人しか乗っていない場合は除く〕」（$t(236) = 1.77, p<0.05$）の2項目については女子の得点が有意に高かった。

3）「善さの程度」の因子構造による検討

「道徳性尺度（善さ）」の27項目における「善さの程度」について、男女別に、それぞれ因子分析を実施した（主因子法、プロマックス回転）。その結果、スクリー法により、男女とも4因子が抽出されたが、男女において因子構造は異なっていた。

男子では、第1因子の固有値が9.44、寄与率が34.95%と大きく、「№17　自分の先祖を大切に思う」、「№16　先祖のお墓参りに行く」、「№24　夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする」、「№27　自然と調和した生き方をする」、「№26　自然を大切にする」、「№15　親孝行する」、「№14　家族揃って、食事をする」、「№13　年中行事（正月・お盆・お節句・お月見など）を大切にする」、「№6　乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる」、「№1　他人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う」などで、「家族、先祖、自然との関係性の尊重」と命名した。善さの程度の平均得点は、7.82点であった。

第2因子は、「№22　日本人を愛する。大切に思う」、「№21　自分の故郷を愛する。大切に思う」、「№23　世界中の人を愛する。大切に思う」、「№20　日本の国を愛する。大切に思う」、「№18　神仏に手を合わせる」、「№19　太陽に手を合わせる」、「№5　年上の人に対して敬語（相手を敬った言葉遣い）を使う」などで、「日本人、日本、故郷の尊重」、「神仏、太陽の礼拝の実行」

と命名した。善さの程度の平均得点は、6.20 点であった。

第３因子は、「№.4　学校の先生に挨拶する」、「№.25　夢や目標を持つ」、「№.2　家族の人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う」、「№.8　人間関係を大切にするために、自分の言いたいことを我慢する」、「№.3　近所の人に挨拶する」、「№.7　乗り物の中で、障害のある人、怪我をしている人に席をゆずる」、「№.9　乗り物の中で、携帯電話で声を出して話をしない〔緊急事態や、自分１人しか乗っていない場合は除く〕」などで、「挨拶、感謝などの言葉掛けの尊重」、「公衆道徳の尊重」と命名した。善さの程度の平均得点は、7.55 点であった。

第４因子は、「№.12　法律を守る」、「№.11　社会のルールを守る」、「№.10　小学生・中学生が校則を守る」などで、「ルールの遵守」と命名した。善さの程度の平均得点は、7.74 点であった。

女子でも、第１因子の固有値が 9.97、寄与率が 36.94% と大きく、「№.11　社会のルールを守る」、「№.12　法律を守る」、「№.5　年上の人に対して敬語（相手を敬った言葉遣い）を使う」、「№.10　小学生・中学生が校則を守る」、「№.9　乗り物の中で、携帯電話で声を出して話をしない〔緊急事態や、自分１人しか乗っていない場合は除く〕」、「№.2　家族の人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う」、「№.6　乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる」、「№.1　他人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う」、「№.7　乗り物の中で、障害のある人、怪我をしている人に席をゆずる」、「№.4　学校の先生に挨拶する」、「№.3　近所の人に挨拶する」、「№.15　親孝行する」などで、「ルールの遵守」、「挨拶、感謝などの言葉掛けの尊重」、「公衆道徳の尊重」と命名した。善さの程度の平均得点は、8.07 点であった。

第２因子は、「№.18　神仏に手を合わせる」、「№.17　自分の先祖を大切に思う」、「№.16　先祖のお墓参りに行く」、「№.19　太陽に手を合わせる」、「№.13　年中行事（正月・お盆・お節句・お月見など）を大切にする」、「№.8　人間関係を大切にするために、自分の言いたいことを我慢する」などで、「神仏、太陽の礼拝の実行」、「先祖、行事の尊重」と命名した。善さの程度の平均得点は、5.81 点であった。

第３因子は、「№.25　夢や目標を持つ」、「№.26　自然を大切にする」、「№.24　夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする」、「№.27　自然と調和した生き方をする」、「№.14　家族揃って、食事をする」などで、「夢、自然の尊重」と命名した。善さの程度の平均得点は、7.83 点であった。

第４因子は、「№.22　日本人を愛する。大切に思う」、「№.23　世界中の人を愛する。大切に思う」、「№.21　自分の故郷を愛する。大切に思う」、「№.20　日本の国を愛する。大切に思う」などで、「日本人、日本、故郷の尊重」と命名した。善さの程度の平均得点は、6.16 点であった。

3）「善さ」の当為性：適合度検定（χ^2 検定）による検討

「道徳性尺度（善さ）」の 27 項目について、「必ずそうするべきだ」から「そうする必要は全くない」の５段階評定により、その当為性についての考えを求めたが、集計に当たり、「するべきだ」、「どちらとも言えない」、「する必要はない」の３群に分類し、適合度検定を実施し、回答に偏りが見られるかどうかを検討した。

その結果、有意差が見られず、判断が３群に均等にばらついたのは、男子においては、「№18　神仏に手を合わせる」「№20　日本の国を愛する。大切に思う」「№23　世界中の人を愛する。大切に思う」「№24　夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする」の４項目、女子においては、「№18　神仏に手を合わせる」の１項目のみであった。

次に、回答率について注目して整理したところ、男子においては、

「するべきだ」との回答が 70 %以上になった項目は、「№1　他人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う（88.37 %）」、「№2　家族の人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う（86.05 %）」、「№5　年上の人に対して敬語を使う（90.70 %）」、「№9　乗り物の中で、携帯電話で声を出して話をしない（81.40%）」、「№14　家族揃って、食事をする（86.05 %）」、「№15　親孝行する（88.37 %）」、「№21　自分の故郷を愛する。大切に思う（76.74 %）」、「№26　自然を大切にする（72.09 %）」の８項目であった。

次に、「するべきだ」の回答率が最も高いが、その比率が 70 %未満の項目は、「№3　近所の人に挨拶をする（58.14 %）」、「№4　学校の先生に挨拶をする（69.77 %）」、「№6　乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる（58.14 %）」、「№7　乗り物の中で、障害のある人、怪我をしている人に席をゆずる（60.47 %）」、「№8　人間関係を大切にするために、自分の言いたいことを我慢する（60.47 %）」、「№10　小学生・中学生が校則を守る（62.79 %）」、「№11　社会のルールを守る（55.81 %）」、「№12　法律を守る（48.84 %）」、「№13　年中行事を大切にする（69.77 %）」、「№16　先祖のお墓参りに行く（67.44 %）」、「№17　自分の先祖を大切に思う（51.16 %）」、「№22　日本人を愛する。大切に思う（69.77 %）」、「№25　夢や目標を持つ（46.51 %）」の 13 項目であった。

次に、「する必要はない」との回答率が最も高く、その比率が 70 %以上になった項目は、「№19　太陽に手を合わせる（93.02 %）」の１項目であった。この項目は「どちらとも言えない」の回答率が 4.65 %、「するべきだ」の回答率が 2.33 %であった。更に、「する必要はない」との回答率が 70 %未満 60 %以上になった項目について整理したが、それは１項目もなかった。

なお、「どちらとも言えない」の回答に偏った項目は、「№27　自然と調和した生き方をする（46.51 %）」の１項目であった。

次に、女子の回答率について整理したところ、

「するべきだ」との回答が70％以上になった項目は、「№1　他人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う（87.50％）」、「№4　学校の先生に挨拶をする（75.66％）」、「№5　年上の人に対して敬語を使う（96.05％）」、「№9　乗り物の中で、携帯電話で声を出して話をしない（87.50%）」、「№14　家族揃って、食事をする（82.89％）」、「№15　親孝行する（81.58％）」、「№21　自分の故郷を愛する。大切に思う（70.39％）」の7項目であった。ところで、当為性の選択で「するべきだ」の回答率が3群の中で、最も低い項目は、「№19　太陽に手を合わせる（2.63％）」の1項目であった。

次に、「するべきだ」の回答率が最も高いが、その比率が70％未満の項目は、「№2　家族の人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う（60.53％）」、「№3　近所の人に挨拶をする（69.08％）」、「№6　乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる（54.61％）」、「№7　乗り物の中で、障害のある人、怪我をしている人に席をゆずる（57.24％）」、「№8　人間関係を大切にするために、自分の言いたいことを我慢する（55.92％）」、「№10　小学生・中学生が校則を守る（57.89％）」、「№11　社会のルールを守る（54.61％）」、「№12　法律を守る（69.08％）」、「№13　年中行事を大切にする（68.42％）」、「№16　先祖のお墓参りに行く（62.50％）」、「№17　自分の先祖を大切に思う（46.05％）」、「№22　日本人を愛する。大切に思う（60.53％）」、「№25　夢や目標を持つ（53.29％）」、「№26　自然を大切にする（63.82％）」の14項目であった。

次に、「する必要はない」との回答率が最も高く、その比率が70％以上になった項目は、「№19　太陽に手を合わせる（83.55％）」の1項目であった。この項目は「どちらとも言えない」の回答率が13.82％、「するべきだ」の回答率が2.63％であった。更に、「する必要はない」との回答率が70％未満60％以上になった項目について整理したが、それは1項目もなかった。

なお、「どちらとも言えない」の回答に偏った項目は、「№20日本の国を愛する。大切に思う（44.74％）」、「№23世界中の人を愛する。大切に思う（46.71％）」、「№24　夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする（42.76％）」、「№27　自然と調和した生き方をする（48.68％）」の4項目であった。

4）「善さ」の領域判断：適合度検定（χ^2検定）による検討

「道徳性尺度（善さ）」の27項目について、その行為を「した方がよい」と考える“暗黙のルール”は、「道徳」、「社会的慣習」、「個人」のどの領域に属するかを判断して貰った。その回答結果について適合度検定を実施し、回答に偏りが見られるかどうかを検討した。

その結果、有意差が見られず、判断が3領域に均等にばらついたのは、男子においては、「№2　家族の人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う」、「№9　乗り物の中で、携帯電

話で声を出して話をしない〔緊急事態や、自分１人しか乗っていない場合は除く〕」、「№16　先祖のお墓参りに行く」、「№23　世界中の人を愛する。大切に思う」、「№27　自然と調和した生き方をする」の５項目、女子においては、「№16　先祖のお墓参りに行く」の１項目であった。

次に、回答率について注目して整理したところ、男子においては、

「道徳」と領域判断された回答率が最も高く、その比率が70％以上になった項目、および70％未満60％以上になった項目は、１項目もなかった。

次に、60％未満50％以上になった項目は、「№1　他人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う（53.49%）」、「№15　親孝行する（51.16％）」、「№26　自然を大切にする（53.49%）」の３項目であった。

次に、50％未満40％以上になった項目は、「№2　家族の人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う（41.86％）」、「№6　乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる（41.86％）」、「№7　乗り物の中で、障害のある人、怪我をしている人に席をゆずる（48.84％）」の３項目であった。なお「№2」は「個人」が32.56%、「社会的慣習」が25.58%と、ほぼ同率を示したことは先述した通りである。「№6」は「社会的慣習」が39.53％と「道徳」とほぼ同率、「個人」が18.60%と低い比率を示した。「№7」は「個人」が39.53％と「道徳」とほぼ同率、「社会的慣習」が11.63%と低い比率を示した。

「社会的慣習」と領域判断された回答率が最も高く、その比率が70％以上になった項目は、１項目もなかった。70％未満60％以上になった項目は、「№11　社会のルールを守る（65.12％）」、「№12　法律を守る（60.47％）」２項目であった。

60％未満50％以上になった項目は、「№3　近所の人に挨拶をする（58.14%）」、「№5年上の人に対して敬語を使う（58.14％）」、「№13　年中行事を大切にする（51.16%）」の３項目であった。

50％未満40％以上になった項目は、「№4　学校の先生に挨拶をする（46.51%）」、「№10小学生・中学生が校則を守る（44.19%）」の２項目であった。「№4」は、「道徳」が32.56%とほぼ同率、「個人」が20.93%とやや低い比率を示した。「№10」は、「道徳」が39.53%とほぼ同率、「個人」が18.60%と低い比率を示した。「№16」は、「道徳」が34.88%とほぼ同率、「個人」が20.93%とやや低い比率を示した。

「個人」と領域判断された回答率が最も高く、その比率が70％以上になった項目は、「№19　太陽に手を合わせる（76.74％）」、「№24　夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする（79.07％）」、「№25　夢や目標を持つ（83.72％）」の３項目であった。70％未満60％以上になった項目は、「№8　人間関係を大切にするために、自分の言いたいことを我慢する（65.12％）」の１項目のみであった。

次に、60％未満50％以上になった項目は、「№17　自分の先祖を大切に思う（53.49％）」、「№

18　神仏に手を合わせる（51.16%）」、「№21　自分の故郷を愛する。大切に思う（58.14％）」、「№22　日本人を愛する。大切に思う（51.16％）」の４項目であった。「№17」は、「道徳」が34.88%、「社会的慣習」が11.63%とやや低い比率であり、「№18」は、「道徳」が30.23%、「社会的慣習」が18.60%とやや低い比率であり、「№21」は「道徳」と「社会的慣習」が共に20.93%と低い比率であり、「№22」は、「道徳」が20.93%、「社会的慣習」が27.91%とやや低い比率であった。

次に、50％未満40％以上になった項目は、「№14　家族揃って、食事をする（48.84%）」、「№20　日本の国を愛する。大切に思う（46.51%）」、「№23　世界中の人を愛する。大切に思う（41.86％）」の３項目であった。「№14」は「道徳」が18.60%とやや低い比率を示し、「社会的慣習」が32.56%とほぼ同率であり、「№20」は「道徳」が23.26%、「社会的慣習」が30.23%と共にやや低い比率を示し、「№23」は「道徳」が32.56%、「社会的慣習」が25.58%とほぼ同率を示したことは先述した通りである。

次に、女子において、回答率について整理したところ、

「道徳」と領域判断された回答率が最も高く、その比率が70％以上になった項目は、１項目もなかった。70％未満60％以上になった項目は、「№1　他人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う（61.84％）」の１項目のみであった。

次に、60％未満50％以上になった項目は、「№2　家族の人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う（54.61％）」、「№7　乗り物の中で、障害のある人、怪我をしている人に席をゆずる（59.87％）」、「№26　自然を大切にする（51.97%）」の３項目であった。「№2」は、「社会的慣習」が13.16%とやや低い比率を示し、「個人」が32.24%とほぼ同率であり、「№7」は、「社会的慣習」が28.95%、「個人」が11.18%と共にほぼ同率であり、「№26」は、「社会的慣習」が26.32%、「個人」が21.71%とほぼ同率を示した。

次に、50％未満40％以上になった項目は、「№6　乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる（42.11％）」、「№15　親孝行する（46.71％）」の２項目であった。「№6」は、「社会的慣習」が38.16%とほぼ同率、「個人」が19.74%とやや低い比率であり、「№15」は、「社会的慣習」が9.21%と低い比率を示し、「個人」が44.08%とほぼ同率を示した。

「社会的慣習」と領域判断された回答率が最も高く、その比率が70％以上になった項目は、１項目もなかった。70％未満60％以上になった項目は、「№3　近所の人に挨拶をする（61.18％）」の１項目のみであった。

次に、60％未満50％以上になった項目は、「№9　乗り物の中で、障害のある人、怪我をしている人に席をゆずる（57.24％）」、「№10　小学生・中学生が校則を守る（50.00％）」、「№11　社会のルールを守る（57.24％）」、「№12　法律を守る（53.95％）」の４項目であった。「№9」は、「道徳」が25.00%、「個人」が17.76%と共にやや低い比率を示し、「№10」は、「道徳」が33.55%、

「個人」が 16.45% と共にやや低い比率を示し、「№ 11」は、「道徳」が 37.50% とやや低く、「個人」が 5.26% と低い比率を示し、「№ 12」は、「道徳」が 42.11% とほぼ同率、「個人」が 3.95% と低い比率を示した。

50 %未満 40 %以上になった項目は、「№ 4　学校の先生に挨拶する（49.34 %）」、「№ 5 年上の人に対して敬語を使う（48.03 %）」、「№ 13　年中行事を大切にする（48.68 %）」の 3 項目であった。「№ 4」は、「道徳」が 31.58% とほぼ同率、「個人」が 19.08% とやや低い比率を示し、「№ 5」は、「道徳」が 40.13% とほぼ同率を示し、「個人が」11.84% と低い比率を示し、「№ 13」は、「道徳」が 9.21% と低い比率を示し、「個人が」42.11% とほぼ同率を示した。

「個人」と領域判断された回答率が最も高く、その比率が 70 %以上になった項目は、「№ 8　人間関係を大切にするために、自分の言いたいことを我慢する（79.61 %）」、「№ 19　太陽に手を合わせる（74.34 %）」、「№ 24　夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする（83.55%）」、「№ 25　夢や目標を持つ（84.21 %）」の 4 項目であった。70 %未満 60 %以上になった項目は、「№ 21　自分の故郷を愛する。大切に思う（65.79 %）」、「№ 22　日本人を愛する。大切に思う（65.79 %）」の 2 項目であった。

次に、60 %未満 50 %以上になった項目は、「№ 14　家族揃って、食事をする（58.55 %）」、「№ 17　自分の先祖を大切に思う（50.00 %）」、「№ 18　神仏に手を合わせる（55.92 %）」、「№ 20 日本の国を愛する。大切に思う（55.26%）」、「№ 23　世界中の人を愛する。大切に思う（51.32%）」の 5 項目であった。「№ 14」は、「道徳」が 16.45% と低く、「社会的慣習」が 25.00% とやや低い比率を示し、「№ 17」は、「道徳」が 28.29%、「社会的慣習」が 21.71% と共にやや低い比率を示し、「№ 18」は、「道徳」が 19.74%、「社会的慣習」が 24.34 %と共にやや低い比率を示し、「№ 20」は、「道徳」が 21.71%、「社会的慣習」が 23.03 %と共にやや低い比率を示した。

次に、50 %未満 40 %以上になった項目は、「№ 27　自然と調和した生き方をする（43.42 %）」の 1 項目のみであった。「道徳」が 26.97%、「個人」が 29.61% とやや低い比率を示した。

5）「善さの重要性」の男女の得点差による検討（t 検定による分析）

重要性の得点において、27 項目全体の平均点は、男子では 7.08 点（SD = 1.32）、女子では 7.01 点（SD = 1.22）であり、ほぼ同じであった。この結果は、「悪さの程度」の男女差と比べて、更に小さいものであった（「悪さの重要性」の平均値は、男子：Me. = 6.62 点（SD = 1.31）、女子：Me. = 6.99 点（SD = 1.33）であった）。

また、27 項目中、平均点において、0.1 点以上の差が見られた項目は、10 項目において男子の方が高得点を示し、8 項目において女子の方が高得点を示しており、全体的には、男子の方が「善さ」についての感受性が高いという結果となった。これは、「悪さの程度」においては、女子の方が感受性において高いという結果と逆のものであった。

Table1 「善さの程度」の結果〔男子〕：因子分析（主因子法、プロマックス回転）

項目番号	行　為	平　均	標準偏差	因子No.1	因子No.2	因子No.3	因子No.4
17	自分の先祖を大切に思う。	7.19	2.50	**0.88**	0.02	−0.09	0.07
16	先祖のお墓参りに行く。	7.28	2.34	**0.84**	−0.20	0.01	0.31
24	夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする。	9.12	1.37	**0.73**	−0.14	−0.05	0.08
27	自然と調和した生き方をする。	7.63	2.60	**0.674**	−0.04	−0.17	0.15
26	自然を大切にする。	8.79	1.41	**0.669**	0.03	−0.02	0.08
15	親孝行する。	8.37	1.89	**0.62**	0.11	0.11	−0.04
14	家族揃って、食事をする。	6.91	2.78	**0.61**	0.18	0.14	−0.03
13	年中行事（正月・お盆・お節句・お月見など）を大切にする。	6.37	2.93	**0.49**	0.14	0.23	−0.02
6	乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる。	7.63	2.63	**0.46**	0.03	0.33	−0.25
1	他人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う。	8.93	1.30	**0.41**	0.12	0.37	−0.13
22	日本人を愛する。大切に思う。	6.33	2.63	−0.13	**0.99**	−0.096	−0.03
21	自分の故郷を愛する。大切に思う。	6.65	2.95	−0.02	**0.86**	−0.099	−0.06
23	世界中の人を愛する。大切に思う。	6.91	2.52	0.08	**0.81**	−0.20	−0.34
20	日本の国を愛する。大切に思う。	5.93	2.71	−0.24	**0.78**	0.23	0.25
18	神仏に手を合わせる。	6.09	2.97	0.27	**0.51**	−0.16	0.259
19	太陽に手を合わせる。	3.23	2.97	0.17	**0.46**	0.05	0.257
5	年上の人に対して敬語（相手を敬った言葉遣い）を使う。	8.26	1.66	0.24	**0.45**	0.06	0.06
4	学校の先生に挨拶をする。	7.60	2.52	−0.06	0.14	**0.86**	0.0001
25	夢や目標を持つ。	8.47	2.43	−0.12	−0.30	**0.85**	0.09
2	家族の人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う。	8.28	1.97	0.20	−0.27	**0.78**	−0.22
8	人間関係を大切にするために、自分の言いたいことを我慢する。	5.53	2.77	−0.23	0.06	**0.74**	0.35
3	近所の人に挨拶をする。	7.60	2.34	0.209	**0.43**	**0.50**	−0.08
7	乗り物の中で、障害のある人、怪我（けが）をしている人に席をゆずる。	8.42	1.96	0.210	0.33	**0.46**	0.02
9	乗り物の中で、携帯電話で声を出して話をしない〔緊急事態や、自分１人しか乗っていない場合は除く〕。	6.93	2.71	0.332	0.28	**0.37**	−0.05
12	法律を守る。	8.37	2.26	0.12	−0.15	−0.03	**0.77**
11	社会のルールを守る。	8.05	1.99	0.14	0.08	0.05	**0.72**
10	小学生・中学生が校則を守る。	6.81	2.32	0.331	0.34	−0.004	**0.50**
			因子No.1	1.00			
			因子No.2	0.44	1.00		
			因子No.3	0.40	0.33	1.00	
			因子No.4	0.19	0.10	−0.04	1.00

Table2 「善さの程度」の結果〔女子〕：因子分析（主因子法、プロマックス回転）

項目番号	行　為	平　均	標準偏差	因子No.1	因子No.2	因子No.3	因子No.4
11	社会のルールを守る。	8.09	1.71	**0.86**	−0.14	−0.08	0.20
12	法律を守る。	8.38	1.78	**0.82**	−0.08	−0.25	0.19
5	年上の人に対して敬語（相手を敬った言葉遣い)を使う。	8.02	1.54	**0.64**	0.18	0.06	−0.08
10	小学生・中学生が校則を守る。	7.15	1.99	**0.61**	−0.05	−0.02	0.26
9	乗り物の中で、携帯電話で声を出して話をしない〔緊急事態や、自分１人しか乗っていない場合は除く〕。	7.45	1.77	**0.57**	0.24	0.091	−0.16
2	家族の人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う。	8.65	1.41	**0.561**	0.31	0.092	−0.12
6	乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる。	7.86	1.82	**0.556**	-0.13	-0.04	**0.41**
1	他人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う。	8.99	1.10	**0.548**	0.12	0.28	−0.20
7	乗り物の中で、障害のある人、怪我(けが)をしている人に席をゆずる。	8.72	1.36	**0.492**	−0.05	0.16	0.18
4	学校の先生に挨拶をする。	7.68	1.58	**0.488**	0.10	0.26	−0.05
3	近所の人に挨拶をする。	7.69	1.54	**0.40**	0.25	0.29	−0.11
15	親孝行する。	8.14	1.65	**0.34**	0.15	0.26	0.13
18	神仏に手を合わせる。	5.60	2.72	0.03	**0.90**	−0.21	0.06
17	自分の先祖を大切に思う。	6.91	2.31	0.004	**0.748**	0.07	0.205
16	先祖のお墓参りに行く。	7.16	2.12	0.03	**0.747**	0.03	0.200
19	太陽に手を合わせる。	3.36	2.71	−0.07	**0.57**	0.01	0.17
13	年中行事（正月・お盆・お節句・お月見など)を大切にする。	6.35	2.51	0.21	**0.35**	−0.05	0.29
8	人間関係を大切にするために、自分の言いたいことを我慢する。	5.47	1.93	0.15	**0.27**	−0.03	0.01
25	夢や目標を持つ。	8.11	1.71	−0.04	0.03	**0.80**	−0.02
26	自然を大切にする。	8.46	1.47	0.08	−0.22	**0.79**	0.13
24	夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする。	7.97	1.68	−0.02	0.05	**0.70**	0.07
27	自然と調和した生き方をする。	7.59	1.80	−0.002	−0.07	**0.58**	0.30
14	家族揃って、食事をする。	7.04	2.15	0.06	0.003	**0.49**	0.12
22	日本人を愛する。大切に思う。	6.07	2.31	0.01	0.28	0.08	**0.70**
23	世界中の人を愛する。大切に思う。	6.74	2.27	−0.07	0.01	**0.43**	**0.68**
21	自分の故郷を愛する。大切に思う。	6.39	2.30	0.04	0.35	0.09	**0.60**
20	日本の国を愛する。大切に思う。	5.45	2.57	0.01	0.39	−0.02	**0.57**
			因子No.1	1.00			
			因子No.2	0.46	1.00		
			因子No.3	0.42	0.47	1.00	
			因子No.4	0.27	0.30	0.29	1.00

なお男子の方が高得点を示した項目は、「№4　学校の先生に挨拶をする」、「№15　親孝行する」、「№16　先祖のお墓参りに行く」、「№17　自分の先祖を大切に思う」、「№18　神仏に手を合わせる」、「№20　日本の国を愛する。大切に思う」、「№22　日本人を愛する。大切に思う」、「№24　夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする」、「№25　夢や目標を持つ」、「№26　自然を大切にする」であった。

次に女子の方が高得点を示した項目は、「№6　乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる」、「№7　乗り物の中で、障害のある人、怪我をしている人に席をゆずる」、「№9　乗り物の中で、携帯電話で声を出して話をしない」、「№14　家族揃って、食事をする」、「№19　太陽に手を合わせる」、「№21　自分の故郷を愛する。大切に思う」、「№23　世界中の人を愛する。大切に思う」、「№27　自然と調和した生き方をする」であった。

次に、男女の得点差についてt検定を実施したところ、「№24　夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする」（$t(236) = 2.64, p<0.01$）、「№25　夢や目標を持つ」（$t(236) = 2.18, p<0.05$）の２項目は男子の得点が有意に高かった。なお、女子の得点が有意に高い項目はなかった。

考　察

1．善さの程度

「善さの程度」の男女差を検討した結果、全般的に、男子の方が「善さ」についての感受性が高かった。また、t検定を用いたところ、男子の方が高得点を示した項目は、「親や先祖、日本の国、日本人を大切に思う」など自分のルーツに関するもの、「神仏、自然などに対する畏敬の念」に関するもの、「夢や目標の実現」に関するものであるといえよう。一方、女子の方が高得点を示した項目は、「家族関係における気遣い」に関するものであるといえよう。つまり、「善さの程度」において、性差が認められ、女子に比べて男子の方が、より広範囲に「善」を捉えているように思われる。例えば、家族に関する行為であっても、女子は、「家族揃って食事をする」であるとか、「家族であっても、感謝のことばを言う」などを大切にしているようである。しかし、男子は、そうした日常的なことではなく、むしろ親・先祖、日本の国、日本人など、より広範に「家族」というものを捉えているということではないだろうか。こうした傾向は、現在の日本の家族形態が、核家族になり、現実には「家を継ぐ」ということはなくなっているかのようであるが、女子に比べ、男子においては、親や先祖との関係性を大切にすべきものだという考えがあると考えられる。

2．善さの因子構造

「善さの程度」について、男女差を検討するために、それぞれについて因子分析を実施した。その結果、男女とも、第１因子の因子負荷量が大きいことと、４つの因子で説明可能であることは共通していた。

しかし、その因子構造は、異なっており、様々な性差が認められた。先ず、男子では、第１因子は「家族、先祖などルーツ（家系レベル）の尊重」、「神仏、自然などに対する畏敬の念」、「夢や目標の実現の尊重」であり、第２因子は「日本人、日本、故郷などルーツ（家系を越えた、より大きなルーツ）の尊重」、「神仏、太陽の礼拝の実行の尊重」「博愛精神の尊重」であり、第３因子は「挨拶、感謝などの言葉掛けの尊重」、「公衆道徳の尊重」であり、第４因子は「ルールの遵守」であった。

一方、女子では、第１因子は「ルールの遵守」、「挨拶、感謝、敬語の使用など言葉掛けの尊重」、「公衆道徳の尊重」であり、第２因子は「神仏、太陽の礼拝の実行の尊重」、「先祖尊重、行事の実行の尊重」であり、第３因子は「夢、自然の尊重」であり、第４因子は「日本人、日本、故郷の尊重」「博愛精神の尊重」であった。

これらの結果から、男子においては、「ルールの遵守」は、第４因子として、独立して捉えられているが、女子においては、「ルールの遵守」は、第１因子の「公衆道徳の尊重」と渾然一体として捉えられていることが分かる。このことは、小学校、中学校における「校則」が、男子においては、法律や社会ルールのミニチュア版として捉えられているが、女子においては、公衆道徳のように、関係性の尊重や社会慣習の積み重ねという側面から捉えられていることが推測される。

また、女子においては第４因子に「～を愛する。大切に思う」という表現の項目、即ち「博愛精神の尊重」に関係する項目のみがまとまって抽出された。この表現は、男子においては第２因子の「神仏、太陽への礼拝の実行の尊重」に組み込まれていた。一方、女子においては、この「神仏、太陽への礼拝の実行の尊重」は、第１因子の「ルールの遵守」や「公衆道徳の尊重」に組み込まれていた。つまり、女子においては「博愛精神の尊重」が、男子に比べ、独立して捉えられるほど、尊重すべき「善さ」であることが考えられる。ところが、男子においては「博愛精神の尊重」は、人間だけでなく、自然、神仏とも関係したものとして捉えられているようである。

3．当為性

「道徳性尺度（善さ）」の 27 項目について、「するべき行為」、「どちらともいえない」、「する必要がない行為」として、その当為性の違いの特徴を検討するために、適合度検定を実施した。

しかし、これらの行為は、小学校・中学校の道徳の教科書に取り上げられている項目であるこ

とを考えると、27項目すべてが「するべき行為」として選択されるべきであろう。ところが、実際は、男女とも「する必要がない」として選択されたのは「№19　太陽に手を合わせる」であった。この行為は、自然への畏敬の念として、かつては一般的に実行されていた行為であろう。これは、太陽への礼拝という行為は、アニミズムで劣ったものであるとか、未熟な精神構造の表われだという考え方が浸透しているためではないかと考えられる。

次に、「どちらとも言えない」として、男女共に選択されたのは、「№27　自然と調和した生き方をする」であった。これは、「自然を大切にする」という項目が「するべき行為」として選択されているにもかかわらず、どうしてこのような違いが生じたのだろうか。これは、表現上の問題が関係しているのかもしれない。つまり、「自然を大切にする」という表現は、自然に対して、人間の方が上位の存在だという意識が含まれているのかもしれない。それは、自然界のバランスが崩れたら、人間が手を加えれば、何とか修復することができるという考え方につながっているのかもしれない。一方「自然と調和した生き方をする」という表現は、自然と人間との関係が対等だという意識が含まれているのかもしれない。

また男子では、「№27」の1項目だけであったが、女子においては「日本の国を愛する」、「世界中の人を愛する」、「夢や目標を実現するために努力や辛抱をする」という項目も選択された。これは、「博愛精神の尊重」の中でも、「日本の国を愛する」ことと「世界中の人を愛する」ことが、女子においては低く捉えられているということであろうか。また、「夢や目標」に対する関わり方が、女子の方が男子に比べて、すぐに諦めてしまうということなのだろうか。あるいは女子の方が、夢を追いかけていても生きていけないという、より現実的な思考をするという、実際の行動を予測するものになるのかもしれない。

4．領域判断

当為性のところでも述べた通り、「道徳性尺度（善さ）」の27項目は小学校・中学校の道徳の教科書に取り上げられている項目である。それを考えると、「道徳」「社会慣習」「個人」の3領域の中で、「個人」の領域として判断されるべきものではないはずである。

ところが、男女共に「夢や目標に関する行為」、「神仏、太陽に手を合わせる行為」、「先祖、日本人、故郷を大切にする」などは「個人」領域の問題として判断されていることが分かった。これらの項目が、実際の道徳の授業で、どのように教えられているのかとも関係しているのかもしれない。「あなたのためになるから」と言われて、人生の夢や目標を設定するのであれば、当然、「個人」領域の問題として判断されるのであろう。つまり、誰か他の人のためになるような、夢や目標を持つこと、努力することは教えられていないのかもしれない。また、自然や神仏への畏敬の念を育てることは、「宗教の自由」という形で、むしろ教育の現場から敬遠されている事柄にな

っているのかもしれない。日本人は無神論者になっているということなのだろうか。

5．重要性の程度

「道徳性尺度（善さ）」の重要性の男女差を検討した結果、全般的に、男子の方が「善さ」についての感受性が高かった。また、t 検定を用いたところ、男子の方が高得点を示した項目は、「№24　夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする」、「№25　夢や目標を持つ」であった。一方、女子の方が高得点を示した項目はなかった。これは、女子において、夢や目標を設定し、努力をしても、どうせ実現できないのではないかという、諦めの表れであるかもしれない。あるいは、夢だけでは、生きていくことはできないという、現実主義的な思考方法が表れているのかもしれない。この結果は、当為性の項目でも考察したのと同様である。

なお、t 検定では有意差は認められなかったが、女子に比べて男子において高得点が認められた項目は、先祖、親、自然、日本人を大切にするといった、ルーツ尊重の項目であった。一方、男子に比べ女子において高得点が認められた項目は、席をゆずる、世界中の人を愛するなど、「思いやり」や「博愛精神」の尊重に関する項目であった。このように、「善さ」についての性差は、程度だけではなく、重要性の捉え方においても異なることが分かる。

要　約

埼玉県および神奈川県にある私立大学（通学制）の 1 年生、238 名（男子：86 名、女子：152 名）に対して、道徳に関する様々な行為について、「善さの程度」、「当為性」、「領域判断」、「重要性の程度」について、質問紙を用いて、留置法で調査を実施した。

その結果、善さの程度の因子構造、当為性、領域判断において、いくつかの点で、男女差が認められた。

先ず、善さの程度の因子構造において、男子においては、「ルールの遵守」は、第 4 因子として、独立して捉えられているが、女子においては、「ルールの遵守」は、第 1 因子の「公衆道徳の尊重」と渾然一体として捉えられていることが分かる。このことは、小学校、中学校における「校則」が、男子においては、法律や社会ルールのミニチュア版として捉えられているが、女子においては、公衆道徳のように、関係性の尊重や社会慣習の積み重ねという側面から捉えられていることが推測される。

また、女子においては第 4 因子に「～を愛する。大切に思う」という表現の項目、即ち「博愛精神の尊重」に関係する項目のみがまとまって抽出された。つまり、女子においては「博愛精神の尊重」が、男子に比べ、独立して捉えられるほど、尊重すべき「善さ」であることが考えられる。

次に、当為性であるが、本調査で取り上げた行為は、小学校・中学校の道徳の教科書に取り上げられている項目である。それを考えると、27項目すべてが「するべき行為」として選択されるべきであろう。ところが、実際は、男女とも「する必要がない」として選択されたのは「№19 太陽に手を合わせる」であった。これは、自然への畏敬の念として、かつては一般的に実行されていたであろう「太陽への礼拝」という行為は、アニミズムで劣ったものであるから「する必要がない」という考え方が浸透しているためではないかと考えられる。

次に、領域判断であるが、男女共に「夢や目標に関する行為」、「神仏、太陽に手を合わせる行為」、「先祖、日本人、故郷を大切にする」などは「個人」領域の問題として判断されていることが分かった。これらの項目が、実際の道徳の授業で、どのように教えられているのかとも関係しているのかもしれない。「あなたのためになるから」と言われて、人生の夢や目標を設定するのであれば、当然、「個人」領域の問題として判断されるのであろう。つまり、誰か他の人のためになるような、夢や目標を持つこと、努力することは教えられていないのかもしれない。また、自然や神仏への畏敬の念を育てることは、「宗教の自由」という形で、むしろ教育の現場から敬遠されている結果なのかもしれない。

最後に、善さの重要性の程度であるが、女子に比べて男子において高得点が認められた項目は、ルーツ尊重の項目であった。一方、男子に比べ女子において高得点が認められた項目は、「思いやり」や「博愛精神」の尊重に関する項目であった。このように、「善さ」についての性差は、程度だけではなく、重要性の捉え方においても異なることが分かる。

参考文献

阿部洋子　1996　道徳性尺度作成の試み――予備的研究――　日本女子大学紀要　人間社会学部　第6号

阿部洋子　1998　道徳性尺度作成の試み――予備的研究（3）――　日本女子大学紀要　人間社会学部　第8号

阿部洋子　2005　現代日本人における「道徳性」に関する意識構造の心理学的解明の試論――「道徳性尺度」作成のための予備的調査（2）――　跡見学園女子大学文学部紀要　第38号

阿部洋子　2007　現代日本人の青年期女子における善悪に関する意識構造と道徳領域判断　跡見学園女子大学文学部紀要　第40号

阿部洋子　2009　現代日本の青年期の男女における善悪に関する意識構造と道徳領域判断（1）「悪さ」について　跡見学園女子大学文学部紀要　第42号（2）

文部省　1988　小学校指導書　道徳編

文部省　1988　中学校指導書　道徳編

Smetana, J. G., Bridgeman, D. L. & Turiel, E. 1983 Differntial of domains and prosocial behavior. In D. L. Bridgeman (Ed.), The nature of prosocial development; Interdisciplinary theories and strategies. (pp. 163-183) New York; Academic Press.

Turiel, E. 1978 The development of concepts of social structure: Social convention In Glick, J. &Clark-Stewart, K. A. (Eds.), The Development of social understanding. (25-107). New York: Gardner Press.

Turiel, E. 1983 The development of social knowledge: Morality and convention: Cambridge. England: Cambridge.